

広報

ちば市老連

VOL.18

生かそう経験

住みよいまちづくり



地域交流の輪

子ども達と轟さんさん会の皆さん
(03. 2. 13 轟保育所)



ちば市老連

2003—3



講演される寛仁親王殿下

- 市老連創立40周年記念講演 寛仁親王殿下
- 街路づくりと環境 市老連副会長 小 関 誠
- 私の経験から 花見川区 花 島 一二三
- クラブの現実と街づくり 稲毛区 伊 藤 忠 房
- 地域に生きること 緑 区 岩 崎 栄 則
- クラブ運営 思いつくまま 美浜区 渡 辺 章次郎
- 全老連40周年記念大会表彰
- 市老連15年度行事予定表(案)
- 女性委員会研修旅行記 千 葉 照 子
- 事務局だより
- 文芸欄

千葉市老連 創立40周年記念講演

御講演 寛仁親王殿下

平成十四年十二月十二日、千葉市民会館に於いて千葉市老連創立四十周年の記念講演を開催する運びとなり、寛仁親王殿下に御講演をご依頼申し上げたところ、お気軽にお引受け下されました。その間、高円宮殿下の突然の御他界もあり、講演会の開催も危惧されましたが、当日、お元気なお姿で寛仁親王殿下が演壇に立たれた時には安堵致しました。

御講演は「我が国の福祉とヴォランティアそしてアナトリア考古学研究所について」を演題とされましたが、福祉の現場監督という立場を基調とした語り口を貫かれました。

ヴォランティアとは崇高な言葉であくまで無償であり、第三者から見て褒めることがあっても、自分からヴォランティアだなどと誇らしげに言うのは思い上がりであり、自分の背丈の中での福祉支援活動を好きで着々と進めるのが本当の有り姿であるとお話しされた。

続けて、諸外国では、その多民族性・言語や宗教の多様性などの要因により、自分と異なる人達と

の交流が当り前な事として、異質なもののへのアプローチがとても上手です。それに比べて、日本人は、同一民族・同一言語の所為もあり、異質なものを受容るのが苦手なものです。これが、重度障害の人と出会った時に接し方が解らず、拒否反応となつて、区別や差別となつて現れることが多いのです。こんな場合には、視診・問診・触診などを通じて、相手を理解し、相手と同じ視線で向き合う事の大切さを力説されました。私達も言葉の判らない国へ行けば聾啞者と同じ障害者となる事に思いを致して見て下さい。又、医学的な障害を持つ人でも残存能力を十二分に發揮して澆刺と活躍されている方々もおられ、単純に健常者だとか障害者とか区別するのは大間違いであることを例を挙げて説明されました。

更に、ハンセン病支援団体として貞明皇后様の御遺金を原資として先帝様・秩父宮・高松宮・三笠宮の御兄弟が尽力され、昭憲皇太后と貞明皇后の御印を戴き、藤楓協会を設立、現在は寛仁親王殿下

が総裁となられ、ハンセン病への理解を深める活動にも言及され、日本では福祉団体に対する免税措置などにはやや難点は在るものの、福祉面ではバランスの良い制度が整い、世界のベストテンに入る地位にある事を強調されました。

寛仁親王殿下は御自身の闘病や御家族の日常の暮しぶりなどにも触れられましたが、私達と同じようなごく普通な姿が浮びました。障害者であろうが健常者であろうが、日本人として自立し且つ連帯して自然体で生きてゆく事を目指すべきであり、過保護や慇懃無礼な扱いがかえって疎外感を強めている傾向を嘆いておられました。

時として、ユーモアを交え軽快なジョークを飛ばしながら、講演はあつという間に終わりました。

寛仁親王殿下の爽やかなお話しに関係者および老人クラブの会員、九百八十人は自づと起立し、盛大な拍手で敬意と謝意を捧げて講演会は幕を閉じました。

(教養部 小関澄子・高橋平一記)

本稿は寛仁親王殿下付宮務官永田忠政氏の校正をお願いしたものです。

街路づくりと環境

千葉市老人クラブ連合会副会長 小 関 誠

自立し創造する都市をめざした道路ネットワークの形成を目標にした「ちばしの街路づくり」は、都心部の街路事業が整備されると共に、市街地の再開発で、より美しい街路並みや道路の整備が進み、千葉市の景観も大きく変貌しました。

その中で緑区は最も開発がおくれた地域ですが、特に土気、鎌取のはざまにある誉田地区の状況は、誉田駅周辺の旧態依然たる駅舎を中心に、最悪の道路事情と相まって公共の施設も少なく、六区の中で取り残された「いきいきプラザ」がこの春ようやく開設される運びになるなど、行政的にも日の当たらない地域です。

昭和三十五年前後を契機にして、落花生畑が宅地に造成され、道路整備もなされない農道が生活道路になり、その関東ローム層は見事な霜柱で我々を大いに悩ませてくれました。道路の整備は道普請という共同作業が数十年続きました。その間道路舗装の陳情を繰返しましたが行政の手は届かず、結局地域住民の負担により私道整備の形で待望の舗装道路が実

現し、女性たちはハイヒールの痛みから解放されホッと一息ついたものです。

誉田に移り住んで四十年、住民の悲願ともいわれる駅舎の建替え、北側への橋上化、都市計画道路法に基づく二十米道路への夢のかけ橋が、ようやく実現しようとしています。完成までの道程は五、六年の年月が必要とのことですが、無秩序に建築された家並の買収、立退き等用地の確保にも困難な状況が山積しているため、この地域の老人たちは実現まで、もう暫く延命を余儀無く強要させられそうです。花いっぱい運動に参加したくても、花を植えるスペースはおろか通行人が安心して歩けない道路、雨の日は車が飛ばす水しぶきで傘は横にささなければ、びしょ濡れになってしまう市道を、おぼつかない足どりで歩く始末ですから、駅舎の完成は一日千秋の思いで待たれます。現在これに先だってこの四月に駅の北側に「さくら公園」が開園の運びとなりました。テニスコート、ゲートボール等のできる施設もあり、四季の花々を楽しむ

スペースもあるようなので、住民の期待は大きいものと思われれます。

日常の生活に美しい花のある街路並み、緑豊かな郷土、今盛んにいわれている里山の保存、緑区の名にふさわしい心にぬくもりのある街路づくりの必要性をしみじみ実感していますが、最近少し気になることがあります。それは野草、雑草の種の激減で路傍にひそやかに咲いていた犬ふぐり、佛の座、からすのえんどう、タンポポまでも、よほど注意して探さないと見られなくなったことです。アスファルトの割れ目に顔を出している爪草など、自然と人間の共生のむずかしさをしみじみ感じますが、多少の不便さはあっても、四季のうつろいのなかを野の花々に豊かさを求めるのは年齢のせいでしょうか、人間の傲りでしょうか。

おわりに、この地域の再開発が画一的なものではなくて、「ちばしの街路づくり」事業の整備が、その地域の実情に添った開発で推進されるよう、行政の更なる配慮が期待されるところです。

私の経験から

花見川区老連 花島 一二三

六十才で無事定年退職し肩の重荷を下していますと、丁度この時期は町内会の役員の改選期でした。待ってましたとばかりに次年度の自治会長をお願いしたいと言うことでした。

私も突然のお話であわてましたが、考えてみますと今まで町内の行事について何一つお手伝いした事もなく、お世話になることばかりでした。自分としても心に多少余裕が出て来ておりましたし、今までの経験を生かしてみたい気持ちもありましたので、承知する事にした次第です。

私の町は僅か七十世帯二百二十人程の代々続いている昔ながらの農家が中心で、他市から転入された人達も少なく五、六世帯、これも両親が地元の人です。特に問題もなく、月に一度の町会も皆昔からの顔なじみです。どうやら任期二年の中場を

次次第です。

とかく長い間の毎日の行動や習慣がいつの間にか習性となってしまうて、その時点での現状になれてしまったの思い込みがあった事でした。その後もし引き続き二期務めさせていただきましたが、何才になっても一生勉強して行かなければならないとしみじみと感じ、会長を引き受けて良い経験と反省の機会を得ることが出来ました。

一人前と思っていた自分でしたが、まだまだ苦勞が足りないといづく反省させられました。

クラブの現実と街づくり

稲毛地区老連会長 伊藤 忠房

ある文献によると、近い将来人口の三人に一人が六十五才以上の高令化社会になるといわれております。益々、老人の果たす役割は中心的な存在になるかも知れません。

そのためには老人クラブの充実が強く求められると共に、会員増強にも力を入れたクラブの活性化が必要であります。ところがここ数年、各単位クラブの減少は、高令者の加令化と六十才代の会員離れに

集団としかみられず、勧誘すると自治会に加入しているからと相手にしてくれません。従って、これからの老人会は広い地域にわたりその理想・理念に生きがい共鳴できる人の集まりか、またはスポーツ、芸能などその他幅広い人の集まりでつくり、これが社会に認められるような組織をつくるべきです。

稲毛地域では、ここ数年上部団体の催し物には殆どの会員が参加できず、行事にもついていくことができません。これも高令化が加速しているとしか考えられません。

それでも限られた地域の催し物には積極的に参加して、これまでの経験と先人から引き継いできた地域の伝統や習慣、その仕組みや方法について若い人に語り伝えており、これが高令者の生きがいや社会奉仕とされ、地域の街づくりの一つにもなっております。

また、毎年催される夏祭りや学習の場である文化祭などは、高令者の知恵と経験を若い人に伝える場となり、相互

の親睦や助け合いともなり、良い街づくりに生かされていきます。

ただ、地域の高令者(クラブ会員)は、年々高令化の加速がすすみ、上限は消え六十才代の会員は敬遠が後継者不足の一因にもなり、世代交替を考慮してこの問題に取り組んでいくところです。

ある人はむしろ老人会は、大体が自治会の構成員(体)だから、自治体が抱括して、老人会を独立させた方がよい。自治会が抱括することにより、その地域の老人(会員、非会員)すべての人に、きめ細かくしかも幅広く、会員、非会員の区別なく施策ができるのではないかという意見さえもあります。

いずれにしても会員勧誘は急務です。幸いにも私どものクラブには、俳句の会、カラオケ同好会、歩こう会があり、それぞれの目的に向かって活動をしているので、これらを基礎に六十才代会員の勧誘につとめ、これからくるであろう老人の社会に対処したいと考えております。

地域に生きること

— 地域の歴史・人・くらし —

緑区老連会長 岩崎 栄 則

住んでいる地域をどれほど知っているかと問われる、自信のない自分がそこにいるのを知る。地域は歴史・人・くらしを共有、共存している場である。周りから高令者を指して生き字引とか物知りを持ち上げるが、その対象になるのはごく少数派に過ぎない。でも誰もが、その対象になり得ると僕は思う。

地域の歴史でも、老人クラブの年輪を合算すると大変な年輪を数える。一人ひとりの自分史を重ねると、語り部として生きた地域の歴史を刻むことになる。いま、その努力は欠けているが、それぞれの生き方にかかっている。人の交流は地域の活性化そのものである。核家族、生活様式Ⅱ意識の多様化のなかで、人的交流を密にしていくなかで、老人クラブの存在感もそこに

あるし、さらに世代間の交流促進も活動の目標にしていくことが問われていると思う。

高令者の生活圏は一キロ以内であると、ある学者が書いていた。その範囲に日常生活に必要な条件が整っているかといえば、そうなってほしい願望になってしまっている。

クラブ運営 思いつくくま

高洲地区老連会長 渡辺 章次郎

不況のなかで地域の商店が閉店し、スーパーで買物するようになるが、狭い歩道に段差、手押し車で不便を強いられるなかで、古市場町ことぶき会は歩道調査をすることを決め実施しようとしている。高令者自身が地域の問題に一步踏み出すことに、変革のインパクトがあると思っている。

老人クラブの活動にとつて、高令者のさまざまな問題について、発言しふみ出す社会参加が、いまほど求められているときはないと痛感しているのである。

「反省」との二つの見方があると思いますが、私は反省の時点に立って申し上げたいと思います。

現在市老連の理事会は、今更申し上げることもなく、市老連の業務運営の中枢機関であり、その重要性は誰しも認めるところでありますが、現在その動きについて、やや疑問の点があると思います。

現在理事会は、年二回の総会開催の準備機関として開催しておりますが、権能の一つである総会の議決事項の執行に関しての、職務がないがしろになっているのではないのでしょうか。また、理事会は、会長が必要と認めるとき開催するとあり、単なる総会の準備機関ではないと思います。

次に、女性委員会について、申し上げてみたいと思います。最近、新人女性会員から、女性委員会という会があると聞いているが、どういう会合なのか教えて下さい、という質問を受けました。

これは市老連女性委員会運営内規があり、女性リーダー

は相互に連携を保ち、組織の強化をはかることを目的とした集まりであるとのことでした。了解して貰いました。女性会員は納得しない様子でした。私としても説明が不十分であったと思いましたが。女性会員のあり方については、明確にする必要があると思います。

以上、私が思いつくくま、まとめてみました。私共老人会は、現在ひとつの岐路に立っていると思います。流れそのものを考えることは相当の努力を要すると思いますが、最終的には会員の増強に繋がると思います。

これは私の偏見かも知れませんが、従来とも、地区老連の存在がなんとはなしに、ないがしろになっていると思われふしがあります。誤解でなければと思いますが。

私共地区老連は、市老連発展の要であると自負しております。折角ご検討下さい。

本年一月初旬美浜区老連理事

市老連広報紙第十八号の発行に伴う指定原稿を引受けてくれないかとの話がありました。

私は第十二号に投稿したこともあり、日頃の考え方、表現に重複する懸念もありましたので、今回は遠慮いたしたい

とお断りしたのですが、是非にとのお返事がありお引受けいたしました。

メインテーマ「生かそう経験・住みよい町づくり」にはそぐわないと思いましたが筆をとりました。

業務運営についてはその可否を考えると、「批判」と

厚生労働大臣表彰

優良老人クラブ受賞

若松台ふれあい広場会長 藤森清彦

既報の通り昨年九月二十六日、東京日比谷公会堂で「全老連創立四十周年記念全国老人クラブ大会」が開催され、全国より代表約二千名が参集式典が挙行されました。

この意義深い大会に、千葉市老連より三十八名が参加致しました。はからずも当「若松台ふれあい広場」が、「厚生労働大臣表彰・優良老人クラブ」として表彰される栄に浴し、些かの戸惑いと驚きを覚えたその時の感想を書いてみました。

陛下の「老人クラブが、我が国に、他者の立場をおもんばかる心豊かな社会を發展させていく上で、大きな役割を果たしている」とのおことば、小泉総理の「激励」、全老連常任理事・北海道老連会長後藤性信氏の力強い「大会宣言」、江戸町火消しの伝統を継ぐ江戸消防記念会のアトラクショ

ン。齊藤茂太先生の洒脱な「快老のすすめ」の講話が印象深く残りました。又、後藤氏は緊張のあまりか宣言文を朗読後体調をくずし倒れるハプニングが起き、皇后様がお声かけられ手を差し伸べられる光景があり、やさしさにはほえみ、何故かジーンとする思いがありました。勿論会場全体は厳重な警備体制が敷かれていました。その中で沖縄読谷村の波平老友会、仙台将監中央将寿会、名古屋港栄寿クラブ、京都第五鴨寿会の会長さんとも会話交流をさせていただきました。

メインテーマ二十一世紀が「ゆとり」と「うるおい」と「やすらぎ」に満ちた心豊かな社会となるように、創造と連帯の輪を広げよう！を肝に銘じ、各クラブがそれぞれの施策で展開、發展される事を

全老連会長表彰

育成功労者受賞

桜木町はづき老人クラブ会長 来生 三

九月半ば頃に、市老連事務局の書類の中に全国老人クラブ会長尾立子様よりの「育成功労者表彰」の通知が入っておりました。何も聞いていないものですからびっくりしました。電話で市老連事務局へ伺って見ましたら、先日の作品展の時に話したつもりでし

九月半ば頃に、市老連事務局の書類の中に全国老人クラブ会長尾立子様よりの「育成功労者表彰」の通知が入っておりました。何も聞いていないものですからびっくりしました。電話で市老連事務局へ伺って見ましたら、先日の作品展の時に話したつもりでし

また、桜木はづき老人会も初代会長を来生彦二郎（主人）、二代目木村国策会

念じております。私達のクラブも「生きがい活動」を基盤に「健康・友愛・奉仕」を理念におき、会員が一体となり、仲間づくり、健康づくり、友愛活動の推進、地域社会に少しでも寄与しよう、若い世代と手をたずさえ

よう、生活学習をめざそうと試行錯誤をしている最中です。その為には、私達を取り巻く各方面の協力と支援が不可欠となります。地域ぐるみで推めようと更なる助力をお願いして居ります。

懇談会には大勢の出席者が慶びをかみしめニュースタイルのクラブづくりの一里塚と受取り、一層の飛躍を誓い合いました。焦らずステップ・バイ・ステップ。着実な進歩。魅力あるクラブづくりをめざして!!

だが、忙しさに紛れ忘れてしまい申し訳なく思っております。自分の履歴のことですから本来であれば私が書かなければならないのですが、全老連から提出して頂きました。本当に有り難いことです。思えば女性委員の中で私が一番古くなりました。

人生八十年色々なことがありました。今の若葉はづき会発足当時は、会長が日暮信会長で役員は女の私と五人位で八月に発足しました。設立が八月であったので、自治会の名称も「桜木はづき会」と名付けました。

が出たりで防犯灯を行政にお願いするなどの運動をして、会員の皆様の安全に努めました。

一方、自治会内では会員の葬儀を自治会館で行うことにより費用の節約に努め、十年以上も葬儀委員長と言われる程手伝って来ました。また、特別養護老人ホーム(宙科ホーム)にも、平成六年から七年

間毎月二回四十五人の方々にお手伝いを頂きボランティアをして参りました。ある時、全老連の見坊和雄副会長を更科ホーム(痴呆の方一五〇人)へ案内した際に「大変なことですね」と言葉を頂きました。

何ごとでもできることは頑張ってきましたが、今はお寺の仲人である世への嫁入りを断わっている始末です。

この度の『全国老人クラブ大会』に最前列の六番目に座らせて頂き、天皇・皇后両陛下のご臨席を賜り、坂口厚生労働大臣のご列席を頂いたなかで、天皇陛下のおことばを賜り、感激これに優するものはありません。また、この席上において、全国老人クラブ連合会長尾立子会長から『老

人クラブ育成功労者』として表彰を受けることが出来ました。八十才になって最高の幸せを頂きました。この感激を元気に替えて頑張りたいと思っています。

この表彰を受けることができたのも自分一人ではできません。会員皆様のお陰です。本当にありがとうございます。

私は、年が若いと言われませんが、これも皆さんのお陰です。これからも元気で頑張りますので宜しくお願い致します。(平成十四年十月記)

〔来生 三 表彰経緯〕

平成2年5月20日

市老連会長 波多野 透

平成9年5月22日

千葉市長 松井 旭

平成11年6月11日

関東甲信越ブロック
老人クラブ会長 吉江 健吉

平成14年9月26日

全国老人クラブ
会長 長尾 立子

昭和62年5月

〔桜木町はづき会表彰経緯〕

昭和62年5月

市老連会長 波多野 透

平成12年5月23日

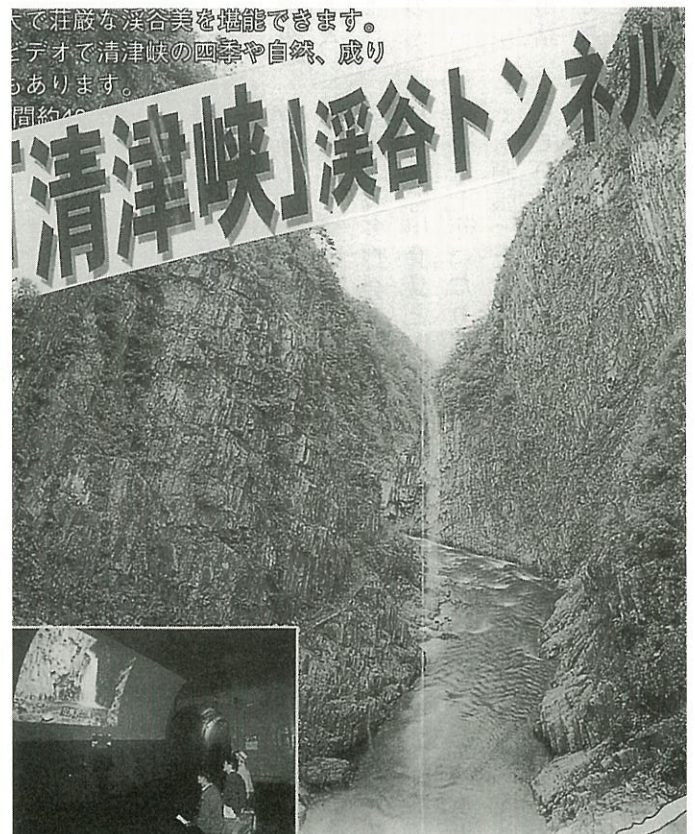
市老連会長 新生 清蔵

市老連会長 新生 清蔵

千葉市老連 女性委員会研修旅行

平成14年11月6日～8日(2泊3日)

- ◎ 日本三大渓谷 「清津峡」を尋ねて
- ◎ 雪国館見学 「川端康成生誕100年」
- ◎ 日蓮聖人漂着 番神堂・番神岬
- ◎ 上杉謙信ゆかりの「春日山 林泉寺」
- ◎ 研修会 野口先生「健康講座と体操」



◇第一日目(11月6日(水))

霜の降りた畑を見ながら集合場所に。狩野委員長さんを先頭に長谷川会長さん、湯浅事務局長さん、小林事務員、看護士の滝沢さんにも御同道を頂き、総勢七十四名が二台のバスに分乗。

素晴らしい天候に恵まれ冠雪の富士山を見る事が出来、更に浅間山の冠雪も見ることが出来ました。二山が見れると言う事は滅多に無いとの事でこれは幸先が良いなと思えました。

長いトンネル(日本一で一〇・九八一m)を抜けると雪国だったと言う有名なトンネルを抜けると、なんとそこは吹雪の乱舞で驚きの歓声でバスの屋根がふっとびそうでした。これはきっと雪の少ない千葉市の私共への神様からの贈り物「素敵な雪のショー」だったのでしょうか。

昼食後、日本三大渓谷「清津峡」を見学。紅葉の上に積もった雪にも見とれました。大自然の造景美の素晴らしさに目を見張り、とうとう第三見晴所迄歩を延ばし、柱状節

千葉市老連平成15年度上期行事予定 (案)

④全老連 ⑤関東甲信越静ブロック連協

4月3日(木) 11日(金) 14日(月) 16日(水) 22日(火) 23日(水) 25日(金)	市・区老連会長会議 監査会 女性委員会研修旅行 ⑤ 事務局長会議 理事会 ④ 新任職員研修	7月1日(火) 2日(水) 3日(木) 9日(水) 10日(木) 16日(水)	市・区老連会長会議 会員研修旅行 マレットゴルフ大会 (同予備日) 民謡講習会
5月2日(金) 7日(水) 8日(木) 16日(金) 20日(火) 21日(水) 23日(金) 28日(水)	市・区老連会長会議 グランドゴルフ大会選手選抜会 (同予備日) 囲碁将棋大会選手選抜会 ⑤ 会長・事務局長会議 第16回通常総会 ④ 女性委員会総会 ④ 評議委員会	8月5日(火) 17日(日) 21日(木) 22日(金) 25日(月)	市・区老連会長会議 親子三代夏まつり 作品搬入 作品展
6月3日(火) 10日(火) 13日(金) 18日(水) 20日(金)	市・区老連会長会議 歓送迎会 特選演芸会 ⑤ リーダー研修会(川崎市)	9月2日(火) 4日(木) 5日(金) 17日(水) 20日(土) 25日(木) 26日(金)	市・区老連会長会議 ⑤ 活動推進員研修(山梨県) 民謡講習会 社会奉仕の日 ゲートボール大会 (同予備日)



理の高さに感激して来ました。宿泊先は湯沢グランドホテル。宴会も盛り上り、お釜で炊いた魚沼産「こしひかり」に舌鼓をうちました。

◇第二日目(11月7日(木))

ちょっと寒いが好天に恵まれホテルに近い「雪国館」を見学。雪国の「昔の暮し館」「島田姿の駒子さんの部屋」も見学。雪国が由来しました。日蓮聖人漂着の番神岬、番神堂を見学。お光・吾作の碑を拝み、戦国時代の名将上杉謙信ゆかりの「春日山林泉寺」を拝観。林泉寺は謙信公の祖父長尾能景が父の菩提を弔う為に創建した長尾氏の菩提寺で謙信公は七才から十四才迄この寺で文武両道の修道をつまれ、お

墓もこのお寺にあります。方丈様の多方面にわたる御説明も有難く拝聴させて頂きました。積雪の為白根コースは閉鎖となり、ちょっと廻り道。楽しい夕食のあとは歌謡ショーと太鼓の演奏を楽しみ最後の夜を過ごしました。草津温泉は江戸時代八代將軍吉宗公がみつげられたそうで、一二〇mの高地にあり、湯量は日本で毎分ドラム缶で一八〇本も出るそうで、源泉は九カ所もあるそうです。

◇第三日目(11月8日(金))

今回の旅行の研修目的である「野口仲治先生」による「健康講座・健康体操」をホテル内ホールにて実施。音楽に合わせて①バラが咲いた②月の砂漠③銚子大漁節④草津節⑤雪やこんこ⑥村まつり⑦青い山脈等を楽しみました。最後に「爪揉み運動」は血流が良くなる外いろいろと効果があるので是非やってみて下さいとの事。爪の両端を反対の一本の指でぎゅっと押すだけで「ふるさと」の歌に合わせて親指から小指まで押していきます。この講座

を思い出し毎日身体を上手に動かし、健康で明るい生活をおくりましょう。

十一時半ホテル出発。「ベルツ会館」見学。ベルツ博士は明治九年、政府の招きで来日し、二十九年間も東京大学で教鞭をとる傍ら、皇室の侍医を務めたり、外草津温泉の効能について広く知らせたり、「つつが虫病」の治療や「ベルツ水」等でも知られています。バスの中で草津節の復習をしたり、爪揉み運動をしたりで昼食後はみなさんちょっとお疲れ。

旅行の三日目は雨との予想に反し、風も無く天候に恵まれ、とても思い出多い旅となりました。日本一の名ドライバーの香取さん、お話し上手な名ガイドの伊藤さん。とてもお気遣いを頂いた看護士の滝沢様、本当に有難うございました。会長始め役員の方、本当に御苦労様で御座居ました。飛鳥旅行さんの企画にも感謝。

夜空に浮かんだ三日月様に見守られてなつかしの我が家に着きました。皆さん、又、お逢いたしましょう。

お元気ですか

事務局だより

創立四〇周年記念 グランドゴルフ大会

▼十月八日

青葉の森スポーツプラザ
各区老連から選抜された二十九チーム(約二〇〇名)が、三コース(一コース、十ホール)を回り競技した。成績は次のとおり。

「団体の部」

優勝 小倉台親和会(若葉区)
準優勝 都賀の台
シルバークラブA(若葉区)

第三位 白旗A(中央区)

「個人の部」

優勝 富高伊佐男(若葉区)
準優勝 小杉 康文(若葉区)
第三位 黒沢 晴一(若葉区)
第四位 勝又 五郎(緑区)
第五位 鈴木 達雄(中央区)
第六位 吉留 弘志(中央区)



第十五回 全国健康福島祭

ふくしま大会

▼十月十九日～二十一日

福島市・郡山市を拠点に開催
千葉市は、選手団一五七名、二十種目の競技に参加。当会から、ゲートボール、囲碁、将棋、国際シンポジウム、美術展に参加。千葉市として初出場の社交ダンスも当会より選出し、岸岡泰則さん(若葉区)の最高齢者賞をはじめ、他四名が高齢者賞を受賞し、全国にねんりんパワーを披露した。

女性リーダー研修会

▼十月二十五日

ポートアリーナサブアリーナ
各地区老連の女性リーダー百名が、いきいきクラブ体操・市老連歌踊の実技研修を行った。いきいきクラブ体操は、七つの項目に分かれ、からだの各関節の動きをよくしたり、筋肉や腱をしなやかにし、バランス感覚の保持など高齢者にとって実に理にかなっている体操で、女性リーダーは、各地区老連で普及に努めた。



女性委員会研修旅行

▼十月六日～八日

三大渓谷「清津峡」・上杉謙信ゆかりの「春日山林泉寺」他
女性委員一行は、バス二台

での研修旅行を行い、バスの移動中では、川端康成の小説で「国境の長いトンネルを抜けるとそこは雪国であった」とおりすばらしい雪景色を満喫したり、春日山林泉寺でのお話や野口仲治先生の「健康講座・健康体操」など有意義な研修旅行となった。



ふれあいの店

(高齢者の手作り作品展示即売会)

▼十一月十五日～十七日

ラパーク千城台店
出品者一四七名、出品総数約五千点。会場も三年目に入り、回をかさねるごとに一般にも定着し、三日間でほぼ完売の大盛況に終わった。



第二回 マレットゴルフ講習会 (第一回は九月二十七日開催)

▼十一月十九日

松ヶ丘ゴルフセンター

今年度、健康づくり事業としてマレットゴルフの普及を図り、長野県で研修を受けた保健体育部員四名他を指導員として、講習会を開催。約百



名の受講者は、和気あいあいと楽しんだ。また、中央区末広町に市老連のマレットゴルフ場が設置され、現在は各区分から申込みがあり、マレットゴルフを楽しんでいる。

創立四〇周年記念 芸能大会

▼十一月二十七日

千葉市民会館大ホール

各区老連から選抜された四十二チームは、すばらしい演技を満員の観客に披露した。成績は次のとおり。

市長賞 西都賀弥生会(若葉区)

市議会議長賞

都町第一延寿会(中央区)

市社協会長賞 桜寿会(若葉区)

市老連会長賞 友和会(花見川区)

以下六賞。

創立四〇周年記念

スカイクロス大会

▼十二月四日 川鉄体育館

平成十二年度に健康づくり事業として、スカイクロス講習会を開催し、今年度初めて大会を開催。よりわかりやすく楽しめるために点数を増減する「ノルナーの規則」を廃止し、投数で競うことにした。一コーラス(十ホール)で、二回戦ラウンド、成績は次のとおり。

「団体の部」

優 勝 大宮台第一和楽会(若葉区)

準優勝 白旗(中央区)

第三位 誉田寿(緑区)

「個人の部」

優 勝 勝羽田 努(若葉区)

準優勝 菱沼 安助(若葉区)

第三位 山科 勝禧(中央区)



指導者研修会

▼十二月十二日 千葉市民会館

「創立四〇周年記念講演」

として寛仁親王殿下に御講義を頂いた。演題「我が国の福祉とヴォランティアそしてアナトリア考古学研究所について」

平成十五年

千葉市老連新年会

▼一月十五日

グリーンタワーパレス

関係団体の来賓ご出席の上、

一五八名が集い、その席で、全国老人クラブ大会で、厚生労働大臣表彰・全老連会長表彰、春の叙位叙勲の受賞者に花束贈呈がなされた。宴会では、美味しい料理を食べながら、カラオケ、ビンゴゲームを楽しみ新年を祝った。



全老連創立四〇周年記念 全国老人クラブ大会

▼九月二十六日

日比谷公会堂において開催

全老連創立四〇周年を記念して天皇皇后両陛下、小泉総理大臣、坂口厚生労働大臣をはじめ多くの来賓出席の上、全国老人クラブ大会が、盛大に開催された。

大会において、厚生労働大臣表彰・全老連会長表彰があ

り、当会から次の方々を受賞された。

「厚生労働大臣表彰」

・育成功労者

小関 誠(市老連副会長)

・優良老人クラブ

若松台ふれあい広場

(会長 藤森清彦)

「全老連会長表彰」

・育成功労者

中川正雄(稲毛区老連会長)

来生 三(若葉区老連女性委員長)

・優良老人クラブ

長洲老人クラブ常磐会

(会長 長岡文一)

・優良郡市区町村老人クラブ連合会

中央区老人クラブ連合会

(会長 松林増雄)

・永年勤続

得重一枝(事務局職員)

◎お詫びと訂正

十月発行の広報ちば市老連十七号文芸欄の短歌の部分に誤植がありました。お詫びして訂正いたします。

(投稿者) 都賀の台シルバークラブ

平野寿男さんの三首目

誤 老いたり 正 老いふたり

○ 老いふたり狭き器に

こもれども時に話題は

世界規模なり



短歌

都賀の台シルヴァークラブ 平野 寿男

講演会の客席にゐて難聴われ

あきらめ切つて欠伸せりけり

憩ひの家と言はば言ふべし自治会館

例会の茶菓に老を忘るる

リストラをされし男か郵便受に

チラシ入れゆく後姿さびし

都賀地区愛生尚寿会 山崎 きよし

半身を空洞のまゝに春来れば

俳句

都賀の台シルヴァークラブ 大澤 良之

鳥雲に なほ暮れやらぬ 遠岬

是れしきの 坂に溜め息 山笑ふ

啓蟄や 童子がへりの 生あくび

花見川みのり会 徳橋 義衛

寒月や 異国に眠る 戦友憶う

恙無く 卒寿の年の 瀬越えにけり

梅古木 若き小枝に 花咲かせ

花見川みのり会 大橋 正道

岸壁に 立てて仰ぐや 初日の出

梅の花 紅白きそいて 勝負なし

節分の 豆を片手に 孫が撒き

小中台紅葉会 植草 ミヨ

ふるさとや 風の子育ち ちゃんちゃんこ

しりとりの「ル」の字が出ない 小春かな

初春や 根付の駒に 銀の鞍

小中台紅葉会 亀井 君子

霧こめて 霧笛は海面 走り行く

冬の風 一羽の鳩と バスを待つ

一年の 無事確かめて 年賀状

小中台紅葉会 米島 千枝子

同年の 又一人逝く 年の暮

喪の年賀 ベンを休めば ちぎれ雲

初詣 巫女は欠伸を 噛みころし

小中台紅葉会 佐々木 ミツ子

小春日や 老兄弟の 集ひかな

花飯の黄菊 水替えしとき 薫りけり

ほろ酔いの君と歩めば歲月の

遙かな流れを足元に見る

夕風のバス停にわれの美しと

足袋の白きをほめくれし人

園生台寿クラブ 中川 敏子

新春の部屋に漂よう花の香に

幸せ見つけ夫と乾杯

鄙びたる洗心亭の温もりと

八味の音色に心なごみぬ

限りある人生ならば楽しさを

共に頒ちぬ集いの折に

むつみ鶴の会 高橋 平一

樽酒の 鏡へ槌振る 四方の春

枅酒を ふふみ春着の 紅うるむ

ループタイ 少し抑えて 年酒酌む

若葉区百年会女性部長 佐藤 ユキ子

鱒ちりや 湯毛の向ふに 誰も居ず

手びさしに 相手たしかむ 日向ぼこ

小中台紅葉会 水田 勝二

垣根越し 鉢賞め合うて 菊仲間

空っ風 坂喘ぎ来る 救急車

懐に 大吉のみくじ 初詣

小中台紅葉会 森谷 眞子

日向ぼこ 話のはずむ 垣根越し

菊人形 生まれて菊師 見つめらる

仲見世を 横眼でちらと 初詣

年賀状 一句添えられ 読み返す

若葉区白井地区みどり会 伊藤 辰雄

栗ごはん 母としぶむき 思い出す

空晴れて 十一月の 菊薫る

忘年会 笑いがいっぱい かくし芸

都賀の台シルヴァークラブ 関上 三雄

智慧子碑や 九十九里浜 春の色

引く汐に 満ちる潮あり 貝を掘る

渚踏む 足裏ぬくし 大平洋

長作町緑友会 齋藤 良二

初霜を 軍鶏がけちらし 関つくる

寒鯉の 丸々太り 金色に

春炬燵 して老い夫婦 黙く深く

健康づくりに関する体力測定

ADL(日常生活活動)チェック

各問について、該当するものを1つ選び、その番号を□の中に、該当するものが無い場合は×を記入してください。

問1 休まないで、どれくらい歩けますか。
1. 5~10分程度 2. 20~40分程度 3. 1時間以上

問2 休まないで、どれくらい走れますか。
1. 走れない 2. 3~5分程度 3. 10分以上

問3 どれくらいの幅の溝だったら、とび越えられますか。
1. できない 2. 30cm程度 3. 50cm程度

問4 階段をどのようにして昇りますか。
1. 手すりや壁につかまらなないと昇れない
2. ゆっくりなら、手すりや壁につかまらずに昇れる
3. サッサと楽に、手すりや壁につかまらずに昇れる

問5 正座の姿勢からどのようにして、立ち上がれますか。
1. できない 2. 手を床についてなら立ち上がれる
3. 手を使わずに立ち上がれる

問6 目を開けて片足で、何秒くらい立っていられますか。
1. できない 2. 10~20秒程度 3. 30秒以上

問7 バスや電車に乗ったとき、立っていられますか。
1. 立ってられない 2. つり革や手すりにつかまれば立ってられる
3. 発車や停車のとき以外は何にもつかまらずに立ってられる

問8 立ったままで、ズボンやスカートがはけますか。
1. 座らないとできない 2. 何かにつかまれば立ったままでできる
3. 何にもつかまらないうで立ったままでできる

問9 シャツの前ボタンを、掛けたり外したりできますか。
1. 両手でゆっくりとならでできる 2. 両手で素早くできる 3. 片手でもできる

問10 布団の上げ下ろしができますか。
1. できない 2. 毛布や軽い布団ならでできる 3. 重い布団でも楽にできる

問11 どれくらいの重さの荷物なら、10m運べますか。
1. できない 2. 5Kg程度 3. 10Kg程度

問12 仰向けに寝た姿勢から、手を使わないで、上体を起こせますか。
1. できない 2. 1~2回程度 3. 3~4回以上

総合得点 判定

※判定は全老連発行ブック「体力測定」57頁参照

老人クラブ保険

この保険は傷害保険で
クラブ会員であれば一人でもいつでも加入できます

活動保険

- 活動中と往復途上のケガを補償

年間掛金
500円タイプ

全治7日以上

通院 (日額)	500円	1500円	500円
入院 (日額)	750円	2350円	850円
死亡	50万円	103万円	3万円

※年間掛金 1,000円、
2,000円タイプも
あります。

24時間保険

- どんなときのケガも補償、活動中はさらに手厚く
- 団体保険なので個人契約よりお得

年間掛金
3000円タイプ *活動保険
1,000円分を
含む

活動中

全治7日以上

活動中以外

全治7日以上

- 活動中の細菌性食中毒での入通院、死亡も補償。
- 資料請求・詳しい内容のお問い合わせは、都道府県・指定都市老連または下記へ。
(詳細は、傷害保険普通保険約款および老人クラブ団体傷害保険特約条項によります。)

(上記掛け金・補償内容は平成15年4月1日始期加入の方から適用)



財団法人 全国老人クラブ連合会保険係

〒100-8822 東京都千代田区霞が関3-5-1 霞が関IHFビル1階 TEL 03-3597-8770

この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上が他の引受保険会社の代理・代行を行います。引受保険会社は、それぞれの引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。

〈幹事会社〉東京海上火災保険株式会社、株式会社損害保険ジャパン、三井住友海上火災保険株式会社、日本興亜損害保険株式会社、あいおい損害保険株式会社、ニッセイ同和損害保険株式会社、日動火災海上保険株式会社、

〈全老連指定代理店〉(有)シニアサービス社

★この誌面を機関誌、会報などに版下としてご利用いただき、老人クラブ保険の普及にご活用ください。

後記 編集

■「親孝行したいときには親はなし」昔よく聞いた言葉だが今は死語に等しい。戦前の平均寿命をみると五十才以下。子供達独り立ちする前に親はもういないからだ■鎖国、封建の旧体制から開国、文明の新体制を実現した明治維新は若者達の原動力が中心だったし、近くではあ若者の一人だったことは誇りでもあり、貴重な体験は、いつ、どこでも語り継がれるものになった■経験は重ねるたびに深みを増してくる。だから高齢者の経験を「年の功」ともいう。中味は違っても誰でも「年の功」はもっている■高齢者の経験や能力を社会に活かすために社会参加活動が進められているが、これも「年の功」という「含み財産」をもっているからだ。次代を担う人達に贈ろう。(広)



社団法人 千葉市老人クラブ連合会

〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208-2 ハーモニープラザ3階
TEL 043(262)1236 FAX 043(262)1237